富山大学極東地域研究センター
CFES News Letter
Center for Far Eastern Studies, University of Toyama
2018.12 発行
Vol.32

Ⅰ　研究紹介

2018 年 10 月より極東地域研究センターに非常勤研究員として着任しました宮本舞と申します。12 月からは、極東地域研究センターが推進している研究プロジェクト「北東アジアにおける地域構造の変容：越境から考察する共生への道」の研究員として、プロジェクト関連業務に取り組みます。

写真１. 和歌山県における風力発電所設備（撮影：宮本）

私の専門は環境経済学であり、これまで再生可能エネルギー（写真 1）の技術開発に関する実証研究を行なってきました。私が再生可能エネルギー技術に着目した理由は、私が大学院進学を志した頃と時期を同じくして東日本大震災が発生したためです。皆さんご存知の通り、国内外におけるエネルギー政策、特に、再生可能エネルギー普及政策は東日本大震災をきっかけに大きな転換期を迎えました。私は再生可能エネルギー関連政策が再生可能エネルギーの技術開発・普及に与える影響に着目し、実証研究を通して政策影響を幅広く検証してきました。また、技術開発に着目している点も、私の研究の特色の一つです。持続可能な社会の実現には環境保全と経済発展の両立が求められ、これには環境技術の技術開発が必要であると考えています。パリ協定でも明示されているように、気候変動対策には環境技術の技術開発促進や、途上国への環境技術の普及が必要不可欠です。しかし、技術開発という理系分野の事象を経済学の枠組みで分析するには、文理の垣根を超える上で様々な課題が生じます。その解決策として、私はこれまで特許データを活用した分析をおこなってきました。そして、この学際的な研究を極東地域研究センターにおいて、さらに発展させていきたいと考えています。極東地域研究センターに在籍する研究者の皆様は、文理の垣根を超え、極東地域における様々な課題について研究されています。学際的な研究には、ただ特許データを使用するだけでなく、研究に対する視点そのものが文理の垣根を自由自在に超えられる必要があると考えています。よって、今後はセンターの皆様やセンターの発展に尽力されている皆様と意見交換を行いながら、研究に対する学際的な視点を養い、自身の研究の発展や皆様の研究の発展に貢献したいと考えています。どうぞ、宜しくお願い致します。

（文責：宮本　舞）

Ⅱ　国際シンポジウム開催報告

2018 年 11 月 9 日と 10 日に、富山大学研究推進機構極東地域研究センター主催の国際シンポジウムが開催されました。まず、11 月 9 日には、富山県の平成 30 年度環日本海学術ネットワーク特定テーマ支援事業の助成対象事業として、また当センターが大学共同利用機関法人・人間文化研究機構（National Institutes for the Humanities, NIHU）と、日本国内の 5 つの大学・研究機関と共同で推進しているネットワーク型基幹研究プロジェクト「北東アジアにおける地域構造変容：越境から考察する共生への道」の一環として、「北東アジアの環境問題　ESG・SDGs の時代に問う」公開シンポジウムがファーストバンクキラリホールにて行われました（写真２上）。シンポジウムでは、神戸大学経済学研究科教授・石川雅紀氏、清華大学環境学院環境管理・政策教研所所長・常杪氏、富山大学研究推進機構極東地域研究センター協力研究員・染野憲治氏、慶應義塾大学経済学部教授・細田衛士氏にご登壇頂き、中国や日本における環境問題の現状について講演を行いました。環境問題や廃棄物政策に強い関心を持つ富山県庁職員や県内の企業関係者 40 人以上が参加し、講演の合間や終了後には質疑応答を通して活発な議論が行われました。

その翌日の 10 日には、経済学部と当センター共催の The International Symposium on International Specialization and Sustainable Utilization of Resources in Northeast Asia and the 16th Annual Meeting of the Northeast Asia Academic Network (NAAN)」と題した研究集会が富山大学にて行われました。この研究集会は２つの趣旨により構成され、まず 1 つは経済学部と当センターが韓国の江原大学校（経営大学）、および中国の中南林業科技大学（経済学院、商学院）と共同で運営している「北東アジア国際学術ネットワーク（Northeast Asia Academic Network, NAAN）」の一環として毎年持ち回りの形で行われている研究集会としての位置付けです。もう 1 つは、前掲した当センターが国内の 5 つの大学・研究機関と共同で推進している NIHU ネットワーク型基幹研究プロジェクトに関する国際コンファレンスとしての位置付けです。

写真２．（上）11 月 9 日に開催された公開シンポジウム（ファーストバンクキラリホール）と（下）10 日に開催された国際シンポジウム・研究集会（富山大学理学部）.

以上 2 つの趣旨を踏まえ、今回は、共催者である大学や研究機関だけではなく、中国人民大学、北京師範大学や台湾国立大学などの研究者も招き、国内外約 40 名の研究者が参加し（写真２下）、北東アジアにおける経済成長、国際関係、環境問題、公共政策、ビジネス、歴史や文化等といった分野における 7 つのセッションにより実施されました。各セッションでは３つの研究報告が行われ、それぞれの報告に対して、討論者やフロアから多彩な質問が寄せられ、活発な議論が行われました。また、研究報告だけでなく昼食時や懇親会を通して親睦を深めたことにより、さらなる研究の発展や協力関係の創出に貢献することができました。

（文責：馬　駿）

Ⅲ　富山大学在職期間（NIHU プロジェクト）を振り返って

2018 年 9 月 30 日をもって人間文化研究機構（NIHU）研究員を退職し、10 月 1 日付で広島大学大学院国際協力研究科開発科学専攻平和共生講座・助教に着任しました。2016 年 4 月の着任以来、年度途中の移動までご迷惑・ご心配ばかりおかけしましたが、ひとまず広島での新生活も順調にスタートしました。台風 24 号の直撃を受けて JR 運休予定の中で移動、在来線運休で広島駅に足止めなど、なんとも「らしい」スタートでした。とはいえ、広島大学にも NIHU プロジェクトの拠点があったり、極東地域研究センターの山本先生繋がりの先生が同じ専攻にいらっしゃったりと、縁を感じています。

引き続きプロジェクトの一員としてお世話になりますが、2 年半を振り返りたいと思います。最初の思い出は、面接の場で、今村先生（現名誉教授、当時センター長）に「公募書類の一部を提出し忘れている」と（結構きつめで公開の）お叱りを頂戴したことです。その後色々ありつつも、センター・経済学部の先生方や谷口さん、岸本さん、佐藤さん、プロジェクト他拠点の皆様のご理解・ご助力を頂戴し、気ままに過ごさせていただきました。2016 年には NIHU プロジェクトの一環としてのロシア出張の機会や、センター主催のシンポジウムでの報告機会など、こちらでお世話にならなければ恵まれなかった沢山の経験を頂戴しました。同時に、自身の研究、他大学での非常勤講師や、ファンド獲得に時間を費やすことも許容していただきました。プロジェクト 2 年目からは、経済学部での講義も担当させていただきました。反省点も多くありますが、R を用いた計量経済学や、「ゲーム理論的なモデルで思考を整理し、計量経済学的な実証手法をとる」という、現在標準的なアプローチの国際関係論を経済学部で教えることは、貴重な機会となりました。

ともあれ、皆様のご理解・ご助力を賜り、無事任期内に就職先を見つけることができました。短い間でしたが、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

（文責：伊藤　岳）

Ⅳ『ロシア企業の組織と経営』（日本評論社）のご紹介

この度、日本評論社より『ロシア企業の組織と経営：マイクロデータによる東西地域比較分析』が出版されました（写真３）。私も本書のなかで「人事労務管理」の章を担当しています。本書は、欧州からアジアまで広大な地域をもつロシアにおいて企業経営にどれほどの質的違いがあるかを検証するために東部・西部地域合計 742 社のアンケート調査を実施した成果です。ロシア極東企業の質は低いと思われがちですが、意外な結果満載です。是非、ご一読ください！

（文責：堀江　典生）

写真３．新井洋史編著『ロシア企業の組織と経営』（日本評論社）

【追記】

10 月から新しいメンバーが加わり、当センターはさらにパワーアップしました。教職員一同、また新たな気持ちで学際的な研究を推進して行く所存です。関係者の皆さまには引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

連絡先住所：〒930-8555　富山県富山市五福３１９０　富山大学 研究推進機構 極東地域研究センター
電話：076（445）6510　ファックス：076（445）6520
ホームページ <http://www3.u-toyama.ac.jp/cfes/indexJP.html>